

平成29年度  
北九州市立図書館の運営に関する評価

平成30年12月  
北九州市立中央図書館

# 北九州市立図書館の評価

## I 基本目標 .....

基本目標	
1	これまでの図書館サービス(図書・資料の閲覧・貸出、レファレンス機能、情報サービスなど)をさらに充実させる。
2	市民が抱える課題の解決を支援する。
3	子どもの読書活動を積極的に推進していく。
⇒ 上記の内容を目指していくために、図書館職員や地域の人材など、これらの役割を担う人材の能力向上を図る。	

## II 基本指標と達成状況 .....

基本指標と目標	
【指標】	【目標】
(1)貸出者数	対前年度比増
(2)貸出冊数	対前年度比増
(3)来館者数	対前年度比増
(4)利用者満足度	対前年度比増



達成状況			
	【平成28年度】	【平成29年度】	【達成状況】
(1)貸出者数	1,004,575人	→ 946,002人	対前年度 5.8%減
(2)貸出冊数	3,782,290冊	→ 3,571,438冊	対前年度 5.6%減
(3)来館者数	2,824,443人	→ 2,496,853人	対前年度 11.6%減
(4)アンケートによる利用者満足度の状況(「非常に満足」・「満足」の割合)			対前年比 5項目で増
①「本の品ぞろえ」	84.5%	→ 85.0%	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                     ※回答項目                      ・非常に満足                      ・満足                      ・不満                      ・非常に不満                 </div>
②「本の探しやすさ」	89.3%	→ 89.8%	
③「調べ物の役立ちさ」	88.2%	→ 87.8%	
④「展示・行事の内容」	82.2%	→ 84.3%	
⑤「対応の親切さ」	96.4%	→ 96.7%	
⑥「説明の分かりやすさ」	91.2%	→ 92.4%	

## III 総合評価 .....

総合評価	
1	貸出者数・貸出冊数・来館者数は、前年度に比べ減少しているが、図書館整備による勝山分館・企救分館の閉館や図書館情報システム改修に伴う開館日数減少の影響があると思われる。
2	施策評価では、50項目のうち「順調である」以上の評価が48項目あり、96%を占めている。
3	利用者アンケートにおいても、「対応の親切さ」、「説明の分かりやすさ」など6つの項目の満足度について、それぞれ利用者の80%から90%超の方に「満足」以上の評価をいただいている。 以上のことから、図書館全体の評価は順調であると考え。

外部評価	
施策の具体的な取り組みについては、全体的に順調であると評価でき、図書館の運営がうまく行われている。基本指標及び利用者アンケートの結果が良好であることも評価できる。 今後は、子どもの読書活動を推進するため、学校との連携を更に充実させる取り組みを進めてもらいたい。	

## IV 施策評価

北九州市立図書館では、「これからの図書館サービスのあり方」の中に示された5つの視点に立った取り組みを行っています。その具体的施策50項目の取組状況について、下記の基準を設けて評価を行います。

### <評価の基準>

- A** 大変順調である。
- B** 順調である。
- C** やや遅れている。
- D** 遅れている。

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
<p>*****</p> <p><b>多様な施設とつながる図書館</b></p> <p>*****</p>	文学館などの文化施設との連携	1 (新)文化施設の情報発信	文学館、美術館、松本清張記念館などの文化施設への来館のきっかけづくりのため、文化施設の企画展情報を発信	○中央図書館及び地区館・分館で、文学館、美術館などの企画展示と連動した本の展示等を行った。 ○中央図書館カフェテリア内で、北九州芸術劇場主催の朗読公演を行い、図書館職員がその中でブックトークを行った。	B
		2 (新)最寄りの文化施設の情報発信	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信	○若松図書館では火野葦平資料館や河伯洞、八幡西図書館ではひびしんホール、中央図書館では文学館や美術館分館の行事予定やパンフレット等の資料による情報発信を行った。	B
		3 (新)地元ゆかりの作家作品の充実	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催	○各図書館において、地元出身作家のコーナーを設け、関連資料の展示を行うとともに、地域の歴史、特色を活かして郷土資料の充実に取り組んだ。 ○はじめての絵本事業では、地元出身作家の絵本を選定した。	B
		4 (新)文化施設とのネットワークの構築	文化施設とのネットワークの構築を図るため、中央図書館も文化施設の館長会議に参加	○文化施設館長会議に参加して情報交換を行い、各施設の情報発信を進めている。	B
	他施設との連携	5 大学図書館との連携	大学図書館とのネットワークの構築を図るため、 ・北九州市立大学や九州国際大学の図書館との連携の充実 ・市内にある他の大学図書館との連携の検討	○平成14年8月に北九州市立大学と、平成14年9月に九州国際大学と、それぞれ連携協定を締結し、相互利用を進めているなか、各大学図書館の市民利用の状況を調査し、意見交換の準備を進めた。	C
		6 大学との連携	大学図書館との連携に止まらず、大学教員などを講師に招いて、講演会や講座を積極的に開催	○九州工業大学、九州国際大学、梅光学院大学などの教員等を招き、「ロボットたちとあそぼう」、「銀河鉄道の夜」などの講座を実施した。	B
		7 ネットワーク(連携)機能の充実	中央図書館が地区図書館や分館へ助言や指導を行い、市立図書館のネットワークを充実	○図書館情報システムのハード面等の改修を行った。 ○各図書館の館長会議を毎月、次長会議を随時開催し、連携を図った。	B

内部評価

B

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
	身近なネットワークの構築	8(新)市立図書館における観光情報などの提供	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供	○各図書館で、市内観光情報、区政情報、図書館近隣で行われるイベント等に関するチラシ・パンフレット等を、市民が気づきやすい場所に設置した。	B
		9 ひまわり文庫の充実	市民センターなどに設置した、ひまわり文庫の蔵書構成などの充実	○平成29年度末現在:129ヶ所設置 ・配本冊数 69,897冊(1ヶ所あたり541冊、前年度配本数79,251冊) ・年間貸出者数 30,224人 ・年間貸出冊数 55,685冊 ・配本の内容は、市民センター職員との情報交換を行い利用者の要望に対応するように努めた。	B
		10(新)貸出文庫登録施設数の増加	市民が気軽に本に接する機会を増やすため、幼稚園や保育所などの子育て関連施設や病院、高齢者施設などで利用されている貸出文庫の利用施設を増加	○平成29年度末現在:92ヶ所設置(前年度より1ヶ所増) ・図書館からの配本数:17,630冊 ・概ね2ヶ月～3ヶ月に1回、定期的に配本した。	B

#### 【内部評価の考え方】

文化施設との連携では、各施設の企画展と連動した内容の図書の展示等を行い、パンフレット等の配布による情報発信に取り組むとともに、中央図書館では文化施設と連携したブックトークを開催した。また、大学の教員等を招き、図書館で講座を開催するなど大学との連携を進めた。ひまわり文庫については、市民センターと情報交換を行い、利用者の要望に応じた配本内容になるよう努めた。以上のことから順調と判断した。

#### 【外部評価】

美術館など他の文化施設で行われているイベントの情報を図書館が発信することで、それらの情報を図書館で知ることができるとともに、図書館内に関連図書も並べられるなど、施設間の連携が充実している。  
子どもたちが、市立図書館だけでなく大学図書館も見学して大学の面白さを知ったり、大学生が小・中学校に行って読書活動に携わるなど、大学との連携を進めてもらいたい。  
また、大学との連携を図り、各大学で行われている学生や教員の専門的な活動を活かして、図書館業務とうまく連携させる取り組みを検討してほしい。  
幼少期の読み聞かせは情操の面で大変良いことなので、貸出文庫の充実をさらにお願したい。

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価	
<p>*****</p> <p>市民の課題解決を支援する図書館</p> <p>*****</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">内部評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> </div>	レファレンスの強化	1相談内容のデータベース化	これまで長年積み上げてきたレファレンスの事例に、多くの市民が接することができるようにするため、相談内容とその回答をデータベース化し、ホームページで公開	○各図書館で受けたレファレンスの事例を、国立国会図書館レファレンス協同データベースに登録し、合わせて市立図書館ホームページ上で公開するとともに、内容の更新も行った。	B	
		2レファレンス担当職員の能力向上	図書館業務の基本となるレファレンスを担当する職員の能力向上を図るため、体系的な研修を計画、実施	○本市で開催した図書館地区別研修(九州・沖縄地区)に多くの職員が参加した。 ○福岡県立図書館主催の研修に図書館職員が参加した。	B	
		3レファレンス用図書・資料の充実	多様化・複雑化する市民ニーズに適切に対応するため、レファレンス用図書・資料を充実	○各図書館において、各種レファレンス用資料(辞典、図鑑、地図等)を購入、寄贈受入を行った。	B	
	特色ある図書館づくり		4(新)課題解決支援のための分野別配架と講演会などの実施	・標準的な配架法である「日本十進分類法」を基礎にしながら、市民が抱えている課題に対応するために、テーマごとに図書・資料を並べたり、特設コーナーを設けるなど、市民が図書・資料を探しやすいような分野別配架の実施 ・市民のニーズに応じて、「健康・医療」、「福祉・介護・年金」、「子育て・教育」など、分野別に体系立てた講演会や講座などを実施し、市民の課題解決を支援	○各図書館において、特色あるコーナー作りに取り組んだ。(映画「図書館戦争コーナー」、地元出身作家コーナーなど) ○図書館利用者のニーズに応じて、特定のテーマで資料を集めた常設コーナーや特設コーナーを設置した。(認知症コーナー、医療・健康コーナー、ビジネス支援コーナー、パソコンコーナー、子育てコーナーなど)	B
			5(新)地域の特性などを活かした図書館づくり	特色のある図書館づくりのため、各図書館が地域の特性や地域住民のニーズに応じた図書・資料の配架や講演会などを重点的に実施	○地区図書館、分館で、それぞれの地域や利用者の特性に応じて、各種講座を開催した。(法律セミナー、医療健康セミナー、終活セミナー、経営相談会、メンタルヘルス講座、食育講座など)	B
			6(新)郷土資料の充実	地域の歴史や文化を次世代に伝えるため、地域の郷土資料を充実	○各図書館で、郷土に関する図書資料の購入・寄贈受け入れを行ったほか、郷土資料コーナーで地域に関連した図書や資料の展示を行った。(世界遺産コーナー、地元ゆかりの作家コーナーの設置など) ○平成30年3月に開館した小倉南図書館では、藤田哲也博士の紹介コーナーを設けるとともに充実した郷土資料の収集を行った。 ○子ども図書館に設ける児童文学の顕彰コーナーの準備を進めた。	A
			最寄りの文化施設の情報発信【再掲】(視点1②)	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信		

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		地元ゆかりの作家作品の充実【再掲】(視点1③)	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展時の開催		
		市立図書館における観光情報などの提供【再掲】(視点1⑧)	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供		

#### 【内部評価の考え方】

市民からの様々な課題に対し、その解決を支援するため、認知症、医療・健康、ビジネス支援、子育て等の特定テーマで集めた資料コーナーの設置など、情報提供を行うとともに、法律セミナー、医療健康セミナー、終活セミナー、経営相談会など、テーマに応じた各種講座を開催した。

レファレンス機能を強化するため、レファレンス用資料の充実を図り、事例集をデータベース化してホームページで公開するとともに、本市で開催した図書館地区別研修に多くの職員が参加した。

また、開館した小倉南図書館では地元出身の藤田哲也博士の紹介コーナーを設けるなど、郷土資料の充実に努めた。

以上のことから、順調と判断した。

#### 【外部評価】

レファレンス強化の良い影響として、図書館が市民にとって使いやすくなっている。分野別配架は、市民が本を選びやすく気軽に利用できるため評価できる。

図書館を目当てにきた観光客にも、図書館を通じて街の魅力を発信できるような取り組みを更にしてもらいたい。

地域の特性を活かした特色ある図書館の魅力を感じられる点は評価しており、その特色をインターネットなどで情報発信してほしい。

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
<p>*****</p> <p>子どもの読書活動を積極的に推進する図書館</p> <p>*****</p>	子どもの読書活動推進	1 (新)子ども図書館の整備	北九州市子ども読書活動推進条例で定められた、子どもの読書活動の推進拠点となる「子ども図書館」を整備し、子ども図書館にふさわしい図書・資料を充実	中央図書館内の勝山分館、視聴覚センター及び中央図書館の一部を利用して子ども図書館を整備するため、工事を予定どおり進めた。	A
		2 (新)子ども図書館における子育て・家庭教育支援用などの図書・資料の充実	子ども向けの絵本や図書・資料のみでなく、大人も利用できる、子育てや家庭教育支援用の図書・資料の充実	平成29年度から図書資料購入を予定どおり進めた。	A
		3 (新)「はじめての絵本」事業の実施	出生前の早い時期から子どもの読書に関心をもってもらうため、母子健康手帳の交付時に絵本を配布する「はじめての絵本」事業を実施	これまで出生後に絵本バックを配布していた「ブックスタート事業」を見直し、出生前の早い時期から子どもの読書に関心を持ってもらうよう、母子健康手帳の交付時の絵本配布を開始し、99%以上の方に配布した。	A
		4 絵本の読み聞かせ、おはなし会などの実施	子どもが小さいときから読書に親しめる環境づくりを行うため、絵本の読み聞かせやおはなし会などを実施	○地区図書館、分館で、概ね毎月数回の絵本の読み聞かせやおはなし会を行った。 ○季節ごとに行事(クリスマス会など)を行った。 ・読み聞かせボランティア登録数(平成29年度末現在) 41団体、8個人 ・平成29年度読み聞かせ・おはなし会 開催数:延べ951回 参加者数:延べ17,239人	B
		5 (新)図書館における子ども向け相談窓口の充実	子どもたちが調べごとのために図書館へ来た時、気軽に相談できるように、子ども専用のレファレンス窓口を設け、調べ学習などが行いやすい環境を提供	○各図書館で子ども用の窓口を設けており、調べ学習などで気軽に相談できる環境を提供した。	B
		6 調べ学習用図書・資料及び「調べ方マニュアル」の充実	小・中学校と連携して、それぞれの児童・生徒に応じた調べ学習用の図書・資料や調べ方マニュアルを充実	○図書館ホームページに、調べ方マニュアルを掲載している。(小学生・中学生向け) ○各図書館で、図書館の利用方法や本の探し方についてのリーフレットを作成したり、既存の資料で内容を更新したものを、図書館見学に来た児童生徒に配布した。 ○門司図書館では、夏休みに「宿題おたすけ隊」という行事を開催し、調べ学習の進め方を説明し、資料を配布した。	B
		7 ヤングアダルト向け図書・資料の充実	読書から遠ざかりがちな中・高校生のために、ヤングアダルト向け図書・資料を充実	○各図書館において、ヤングアダルトコーナーを設置している。 ○人気の高いライトノベルや、職業や資格の取り方など実用的なもののほか、生き方の指針となるような図書資料の購入を行い、充実に努めた。	B

内部評価

B

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		8 家読(うちどく)の推進	家庭教育向上の基礎となる親子のコミュニケーションづくりの手段の一つとして家読を推進するため、推薦図書の情報提供や家読コーナーを設置	○地区図書館、分館において、家読コーナーを設置し、「うちどくガイドブック」による情報提供や家読に適したおすすめ図書の紹介や展示に取り組んだ。 ○中央図書館では、夏休みに学校で配布する読書カードに「おすすめ本」を掲載した。HPでも「おすすめ本」を紹介した。	B
		9 (新)地域人材の育成	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施	○中央図書館において、図書館ボランティア養成講座(年2回)、読み聞かせボランティア養成講座初心者コース(年3回)を実施。より専門的な内容の研修としては、ストーリーテリングコース、ブックトークコースを実施した。 ○地区図書館においては、今後、子ども図書館開館後の実施に向けて検討をはじめた。	B
		10 (新)図書館職員の育成	地区図書館で、読み聞かせボランティアなどを養成する講座が実施できるような、図書館職員のスキルアップ	○中央図書館主催の読み聞かせボランティア養成講座に職員が参加した。 ○福岡県立図書館主催の研修に職員が参加した。	B
		11 (新)地区図書館における区役所や市民センターなどとの連携	図書館職員や読み聞かせボランティアを市民センターや地域の子育てイベントなどに派遣し、子ども読書活動の推進につながる読み聞かせなどを積極的に実施	○地区図書館において、区役所との共催イベント、区役所の「親子ふれあいルーム」や市民センターでのイベントなどに、図書館職員や読み聞かせボランティアを派遣し、読み聞かせやおはなし会を行った。	B
		地元ゆかりの作家作品の充実【再掲】(視点1③)	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催		
	学校における読書活動の支援	12 学校向け団体貸出の拡充	小・中学校において、学習の一助とするために、図書・資料の学校への貸出を積極的に実施	○学校向け団体貸出を実施した。 ・平成29貸出団体数 1,391団体 ・平成29貸出冊数 8,574冊 ○学校関係者が参加する図書館教育講習会で、学校向けサービスの一つとして、団体貸出を周知した。	B
		13 学校貸出図書セットの拡充	学校における読書活動や調べ学習などを推進するため、学年別・テーマ別に選んだ図書・資料を学級文庫や教材として使用する「学校貸出図書セット」を、より学校のニーズにあうように内容を充実	○中央図書館で、「学校貸出図書セット」の拡充に取り組んだ。 ・平成29年度 71セットに拡充した。(前年より10セット増) ・貸出実績 107件(前年より7件減)	B

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		14 図書館司書や読み聞かせボランティアの学校などへの派遣	図書館司書や読み聞かせボランティアなどを学校に派遣し、調べ学習や読み聞かせなど、読書に関する取組みを支援	○各図書館で、幼稚園、保育所、小学校等に、図書館司書や読み聞かせボランティアを派遣した。 ・司書の派遣 7館74件 ・読み聞かせボランティアの派遣 5館129件	B
		15 (新) 学校関係者(教員、学校図書館職員など)の人材育成支援	子どもに一番身近な学校で読書推進活動を行う教員、学校図書館職員などに対して、図書館職員が専門的な研修を支援	○学校関係者が参加する図書館教育講習会において、学校貸出図書セットなど学校向けサービスの説明を行った。	B
		16 子ども司書の養成と活用	子どもたちの図書館への関心や読書への意欲を高めるため、 ・図書館で働く司書の仕事を学習する講座を開催し、子ども司書を育成 ・その子ども司書たちが学校で、読書活動推進のリーダー役となることを目指す	○平成29年夏休み期間中の5日間で実施 ・受講生72人(小学生59人、中学生13人) ・講座終了後、受講生が各自の学校での活動の様子について報告した。	B
		17 小・中・特別支援学校児童生徒の読書感想文募集の実施	小・中・特別支援学校児童生徒が読書を通して得た喜びや感動を文書表現することで、ものの見方や考え方を深め、より豊かな感性を育むことを目的として、読書感想文募集を実施	○12月初旬の表彰式において、優秀な作品を表彰した。 ・優秀賞28点、優良賞93点、入選2,828点 ○市内の小中学生約半数からの応募があった。 ・H29年度応募点数 36,421点(191校)	B
		18 小・中学校との連携	図書館と小・中学校との連携を図るため、図書館だよりの発行や小・中学生の図書館見学・職場体験の実施	○地区図書館、分館において、毎月「図書館だよりの発行や小・中学生の図書館見学・職場体験を受入れた。 ・図書館見学受入れ 17館 220件 ・職場体験受入れ 11館 81件	B

#### 【内部評価の考え方】

子ども図書館の平成30年度開館に向け、工事等を予定通り進めた。  
子ども読書活動推進については、各図書館において、おはなし会の実施、ヤングアダルト向けの図書の充実などとともに、学校貸出図書セットの拡充を行うなど、学校の読書活動の支援に取り組んだ。  
以上のことから順調と判断した。

#### 【外部評価】

子どもの読書をする環境が充実し、「はじめての絵本」を始めとした子どもの読書活動に力を入れてもらっているところは評価できる。  
子どもが、インターネットではなく直接本で調べる習慣が身につくように、子ども向けの相談窓口がより気楽に利用できるようにしてほしい。  
小学生に比べて中学生になると、図書室や図書館の利用が少なくなっていくと感ずるので、図書館の良さを更に中学校に行き生徒に発信してほしい。  
読み聞かせボランティアなどの人材育成や年長者の協力を受けながら、図書館や図書館以外での読書活動をより充実してほしい。

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
<p>***** 誰もが使いやすく、 人や情報が交流する 図書館 *****</p> <p><b>内部評価</b></p> <p><b>B</b></p>	情報化への対応	1 Wi-Fiの整備	スマートフォンなど携帯端末の普及が進んでいるため、図書館のWi-Fi環境を整備	○八幡西・中央図書館に続き、平成29年度は小倉南図書館で公衆無線LANを設置した。	B
		2 中央図書館、地区図書館、子ども図書館におけるホームページの充実	利用者が見やすく、使いやすいホームページとなるように、 ・子ども図書館の開館にあわせ、ホームページを開設 ・中央図書館や地区図書館のホームページの見直し	○平成29年度は、ホームページの見直しを行い、改修を進めた。	B
		3 郷土資料のデジタル化への検討	資料のデジタル化に関する情報収集や研修などを行い、郷土資料のデジタル化を検討	○平成21年度、中央図書館で郷土資料(門司新報、福岡県布達集、小笠原文庫、古地図、写真等)をデジタル化した。 ○郷土資料のデジタル化の検討を進め、民間団体と協力し、ガラス乾板のデジタル化に着手した。	C
	ニーズに応じたサービスの提供	4 高齢者などあらゆる人が利用しやすいサービスの充実	バリアフリー化や大活字本の充実を図るなど、高齢者を含め、あらゆる人が利用しやすいサービスの充実	○八幡図書館及び平成30年3月に新設した小倉南図書館において、バリアフリーに対応し、拡大読書機を設置した。 ○高齢者向けに「大活字本」を充実を図った。	B
		5 子ども用トイレや授乳室の設置	子どもと一緒に利用しやすい図書館づくりを目指すため、図書館整備にあわせ、子ども用トイレや授乳室を整備	○八幡西・戸畑・八幡図書館に加え、平成29年度は小倉南図書館に、子ども用トイレや授乳室を設置した。 ○子ども用トイレ等を設置するため、子ども図書館において工事を進めた。	B
		6 (新)図書館以外での本の返却	利用者の利便性の向上を図るため、駅など図書館以外で本を返却できるように、返却ボックスを設置	小倉駅構内及び黒崎駅に隣接するコミュニティ入口の2か所に返却ボックスを設置し、平成29年7月7日から利用を開始した。 ・平成29年度利用 小倉 14,741冊(約82冊/日) 黒崎 5,772冊(約32冊/日)	A
		7 CD、DVD資料の貸出とその充実	図書館整備にあわせて、市民から要望のあるCDやDVDなど視聴覚資料の貸出コーナーを設置	○八幡西・戸畑・八幡図書館に加え、平成29年度は小倉南図書館で、CD・DVD等視聴覚資料の貸出を実施した。 ○平成30年度開館予定の子ども図書館においても貸出準備を行った。	B
		8 学習活動の場、設備、図書・資料などの提供	読書会や郷土史会など、市民の学習活動を推進するため、図書館の施設、設備、図書・資料などを提供	○地区図書館や分館において、読書会、郷土史会や読み聞かせボランティアグループの勉強会等のため会場の提供を行った。	B
		9 (新)くつろいで読書のできる環境の充実	・カフェテリアを設けるなど、くつろいで読書ができるように図書館の読書環境を整備 ・カフェテリアが街のにぎわいづくりに寄与するように、イベントなどの企画を検討	○八幡西・戸畑・中央図書館に加え、平成29年度は小倉南図書館内にカフェテリアを設置した。 ○平成30年度開館予定の子ども図書館では、リフレッシュコーナー設置の工事を進めた。	A

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		10（新）市立図書館への来館のきっかけづくりの提供	これまで図書館に来ていない人が来館するきっかけとなるように、図書資料の配架や開催する講座、イベントなどを見直し	○市民センターや地元商店街、近隣施設等が実施する催しに参加し、図書館のPRを行った。 ○子ども向け映画上映会やコンサートなどのイベントを実施した。 ○子ども図書館で読書履歴を記録する「本の通帳」を導入するため、システム改修等に取り組んだ。	B

**【内部評価の考え方】**

図書館以外の場所での返却サービスとして小倉駅構内とコムシティ入口に返却ボックスの設置を行うなど、利用者が使いやすい図書館づくりに取り組んだ。

また、平成29年度に開館した小倉南図書館では、カフェテリアの設置や視聴覚資料の視聴・貸出など、くつろいで楽しめる図書館づくりに取り組んだ。

以上のことから順調と判断した。

**【外部評価】**

図書館の環境づくりにおいて、誰もが利用しやすい図書館になっていると感じ評価できる。

図書の返却ボックスが駅に設置され、とても便利になったと評価しており、できれば返却場所の増設を考えてもらいたい。

情報化への対応は、これから整備に力をいれてほしい。図書館の楽しい取り組みを、いつでも誰もが入手し、来館できない人も図書館を身近に感じられるようにしてもらいたい。

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
<p>***** 市民参画型図書館 *****</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>内部評価</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p> </div>	ボランティアの育成と活用	1 読み聞かせボランティア養成講座の充実	読み聞かせボランティアの専門性を高めるため、ストーリーテリングやブックトークなどの技術を学ぶ講座を実施	○中央図書館で、読み聞かせボランティア養成講座初心者コースを実施した。(3回実施) ○ストーリーテリングコース、ブックトークコースの専門研修を実施した。	B
		2 図書館ボランティアの育成	市民が図書館運営の担い手となるように、図書館において館内案内や配架などの図書館業務を行う図書館ボランティアを育成	○中央図書館で、図書館ボランティア養成講座を実施している。 ・平成29年度 2回実施(定員 1 回目30名、2回目20名) ・修了者数 49人	B
		3 (新)ブックヘルパーの人材育成支援	学校図書館で図書・資料の整理、補修や読み聞かせなどを行うブックヘルパーが活動しやすくなるように、図書館職員が研修を支援するなど、学校における読書活動に協力	○子ども図書館開館後の実施に向け作業を進めた。	B
		4 読み聞かせボランティアバンクの充実	読み聞かせなどを希望する子育て施設や学校に対し、ボランティア情報を迅速かつ的確に提供するため、 ・読み聞かせボランティアバンクの充実 ・地区図書館ごとのボランティアバンクの設立の検討	○平成26年度に、中央図書館で読み聞かせボランティアバンクを設立した。また、研修会を開催し、バンクに登録しているボランティア同士の情報交換や研修の場を設けた。 ・平成29年度末現在登録団体数41団体、8個人	B
		地域人材の育成【再掲】(視点3⑨)	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施	/	/
	開かれた図書館づくり	5 時代に即した図書館づくりを推進するための図書館協議会の充実	多様化する図書館へのニーズに対応し、効率的で効果的なサービスが提供できるように、図書館協議会の充実に努め、時代に即した図書館づくりを推進	○図書館以外での本の返却サービス実施についてなど、他都市の情報収集を行い、効率的、効果的な図書館サービスの向上に取り組んだ。	B
		6 運営に関する評価の実施	図書館運営に関する評価を行い、広く公表するとともに、運営の改善を実施	○平成25年度から図書館評価制度を導入し、市のホームページに掲載するとともに運営の改善を進めた。	B

**【内部評価の考え方】**

中央図書館において、従来より図書館ボランティア、読み聞かせボランティアの養成に取り組み、市民にとって受講しやすく、わかりやすいように努めた。  
また、図書館協議会が答申した「これからの図書館サービスのあり方」にある図書館以外での返却サービスなど、様々な事業について取り組んだ。  
以上のことから順調と判断した。

**【外部評価】**

読み聞かせボランティア等は良い取り組みだと評価できる。  
ボランティアや大学生などの活動を、学校が知って活用できる仕組みづくりに取り組んでもらいたい。